

一般社団法人 岩の力学連合会
平成 30 年度・第 1 回常任理事会 議事録

日時	平成 30 年 5 月 18 日 13:30~18:10	場所	資源・素材学会会議室
----	------------------------------	----	------------

常任理事会	理事長	新 孝一	○	副理事長 (賞選考)	岸田 潔	○	幹事長 (総務)	岡田 哲実	○
	常任理事 (編集) (地盤)	谷 和夫	○	常任理事 (資源・素 材)	伊藤 高敏	○	常任理事 (土木)	清木 隆文	○
	常任理事 (材料)	西村 強	●	常任理事 (前幹事長)	長田 昌彦	○	常務理事 (国際技術)	横尾 敦	○
	常務理事 (電子 J)	児玉 淳一	●	常務理事 (RockNet)	小山 倫史	○	常務理事 (賛助会員 特別会議)	奥野 哲夫	○
	オブザーバ	清水 則一	×	オブザーバ	安原 英明	×	オブザーバ	藍檀 オメル	×

敬称略順不同, ○:出席, ×:欠席, ●:スカイプ出席

配 付 資 料

資料番号	頁	資 料
資料 30-常任 1-01	1	平成 29 年度・第 3 回常任理事会議事録 (案)
資料 30-常任 1-02	6	平成 29 年度・第 4 回理事会議事録 (案)
資料 30-常任 1-03	15	会員の入退会
資料 30-常任 1-04	17	平成 29 年度事業報告 (案)
資料 30-常任 1-05	25	平成 29 年度収支決算報告 (案)
資料 30-常任 1-06	30	監査報告書
資料 30-常任 1-07	31	役員の退任および役員の選出
資料 30-常任 1-08	32	平成 30 年度事業計画 (案)
資料 30-常任 1-09	35	平成 30 年度収支予算 (案)
資料 30-常任 1-10	39	平成 30 年度定時社員総会開催通知と議決権行使書
資料 30-常任 1-11	45	編集委員会
資料 30-常任 1-12	48	国際技術委員会
資料 30-常任 1-13	52	RockNet 委員会
資料 30-常任 1-14	54	賛助会員特別会議
資料 30-常任 1-15	57	ILC 研究企画特別委員会
資料 30-常任 1-16	60	国際シンポジウム 2019RDS
資料 30-常任 1-17	63	国際シンポジウム YSRM2019&REIF2019
資料 30-常任 1-18	97	国際シンポジウム「火山」
資料 30-常任 1-19	103	岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッション
資料 30-常任 1-20	105	賛助会員特別会議提言を受けた講習会 (案)
資料 30-常任 1-21	106	2023 ISRM Congress
資料 30-常任 1-22	117	岩の力学連合会旅費規程改定(案)について
資料 30-常任 1-23	123	委託業務従事者の変更ならびに会議室料金について

【議 題】

1. 委託業務従事者の変更ならびに会議室利用料の変更について 資料 30-常任 1-23
4 月から自然・素材学会の事務局長となった宇都宮氏より挨拶があり、委託業務従事者の変更ならびに会議室利用料の変更について説明があった。本件については、特に質疑なく了承された。
2. 岩の力学連合会旅費規程改定案の承認※ 資料 30-常任 1-22

自然・素材学会の宇都宮事務局長より、旅費規程改定案について説明があり、以下の質疑があった。

- Q. 以前の一部みなし金額による精算から実費精算に変更したということは、日によって交通費が変わってもよいということか。
- A. そのとおりである。岩の力学連合会の会費で運営しているので適切な経路と移動手段でお願いしたい。以前のようにみなし金額で精算した場合、マイナンバーをもらって源泉徴収しなければならない可能性があり、それにはコストもかかるため、今回実費精算に変更したい。
- Q. 事情により、交通費が最安値にならない場合があるが、それでもよいか。
- A. 仕方ない事情があれば、よいと思う。
- Q. 大学に戻らず、直帰の場合は、その通り申請するのか。
- A. 自己申告とするか、あるいは、学校や会社から決めてしまうか、などの方法があると思うが、規定にはそこまでは記載していない。
- C. 理事は各自で判断すればよい。しかし、シンポジウムなどで講師をお願いした場合などは、判断を明確にする必要があるが、それはその都度決めるという事にはどうか。理事、監事、委員会委員等の JSRM 構成メンバーについては、細かく規定に書くよりは、実際にかかった費用を、なるべく少額に収めるように努力していただくということにはどうか。
- Q. 会社で交通費を支給してもらい、JSRM での交通費の精算が不要であれば、旅費・交通費精算書の交通費不要という箇所に丸を付けて提出するのか。
- A. その場合は、メールや口頭でもよい。いずれにしても連絡がない場合には、事務局より連絡させていただく。

以上より、今後、旅費・交通費については自己申告で実費精算とすることとし、岩の力学連合会 旅費支給規定の改定が承認された。

3. 第3回常任理事会議事録の承認※（岡田） 資料 30-常任 1-01
修正なく議事録は承認された。
4. 第4回理事会議事録の確認（岡田） 資料 30-常任 1-02
議事録の確認が行われた。特に質疑はなかった。
5. 会員の入退会※（岡田） 資料 30-常任 1-03
平成30年1月29日～平成30年3月30日の会員の異動に対して、1名の退会を慰留できたことが報告された。それ以外の9名については退会が承認された。また、平成30年3月30日～平成30年5月15日の会員の異動に対して、3名の入会が承認された。また、退会希望者6名のうち1名については長田理事に、1名については岡田幹事長が大成建設の青木さんに、説得をお願いすることになった。それ以外の4名の退会については、2名の説得の結果とあわせて、次回理事会で承認することとなった。
6. 社員総会 議案1 平成29年度事業報告（案）（岡田） 資料 30-常任 1-04
社員総会の議案1となる平成29年度事業報告を読み上げ、以下の修正を行うことで了承された。

【1. 事業概要】

- ・(2) 啓蒙→啓発
- ・(6)3 岩の力学オンライン講義勉強会（第2回）において、2017年→2018年

【3. 常設委員会】

- ・(5)1 「昨年度新設した」と「第1回の」を削除
- ・(5)3 全て削除、これに伴い4)→3), 5)→4)
- ・(6)2 連合会規則17条（選任）の後に、「の改正」を追加

・(7) 当該年度は活動しなかった。→ 当該年度は改選がなかったため活動しなかった。

【4. 特別委員会】

・2) 第1回賛助会員特別会議を開催(2018.1.15) → 第1回賛助会員特別会議を2018年1月15日に開催

7. 社員総会 議案2 平成29年度収支決算(岡田) 資料30-常任1-05, 資料30-常任1-06
社員総会の議案2となる平成29年度事業報告が紹介され、以下の質疑があった。

Q. 前受金会費収入について、1月～3月にいただいた次年度分を記載するべきではないか。

A. 昨年度より、次の期が始まる前までに会費を納めることになったため、昨年度は前受金会費収入と個人会費収入が別々に記載されている。つまり、昨年度がイレギュラーであった。しかし、今年からは、全額が前受金になっているため、このような記載となっている。

Q. この記載で会計監査は認められているのか。

A. 資料30-常任1-06のとおり、認められている。

Q. もともと基金を使用する予定であったが、基金を使用していないのはなぜか。また、貸借対照表の最下段を見ると、約200万円資産が減っているように見えるが、どのような理由か。

A. 国際シンポジウム関連については、国際会議準備基金より、交流支援や人材育成については、創造的提案推進事業基金より使用することになっていた。前者については、約9万円しか使用しなかったため、一般会計で処理した。後者のうち、交流支援については、約2万円しか使用しなかったため、一般会計で処理した。後者のうち、人材育成については、予定どおり40万円使用しており、本来は創造的提案推進事業基金を使用すべきであったが、一般会計で処理した。一旦、一般会計で処理したとしても、後日、基金から一般会計に移すべきであったが、その作業を怠ってしまった。次年度からはそのようなことがないように事務局と確認した。一方、200万円減っているように見えるのは、約100万円の赤字が今年度の収支で、残りの約100万円は前年度の未払金(主にISRMへの会費の振込)である。

C. 総会の時には、議案に記載の形式だとわかりにくいので、年度ごとの収入の増減などがわかるようにしておいた方がよい。

以上より、平成29年度収支決算については了承された。

8. 社員総会 議案3 役員の退任および役員の選出(岡田) 資料30-常任1-07
社員総会の議案3となる役員の退任および役員の選出が紹介され、特に質疑なく了承された。

9. 社員総会 報告1 平成30年度事業計画(案)(岡田) 資料30-常任1-08
社員総会の報告1となる平成30年度事業計画を読み上げ、以下の修正を行うことで了承された。

【6. 国際会議開催の準備】

・第1項目: Rock Dynamics Summitについては正式名称を記載する。(実行委員長)は削除する。

・第2項目: 第5回YSRMについては正式名称を記載する。(実行委員長)は削除する。また、「の準備」を追加する。

・第3項目: 最後の「の検討」は削除する。

10. 社員総会 報告2 平成30年度収支予算(案)(岡田) 資料30-常任1-09
社員総会の報告2となる平成30年度収支予算が紹介され、以下の質疑があった。

Q. 一般会計で約100万円の赤字になっているが、これは例年同様の額か。

A. 概ね同様の額である。

C. 岩の力学ニュースの PDF 化の予算を加えておいた方がよい。

以上より、平成 30 年度収支予算については、岩の力学ニュースの PDF 化の予算 30 万円を追加することです承された。

11. 定時社員総会の通知について（岡田） 資料 30-常任 1-10
定時社員総会の通知について紹介され、以下の修正を加えることです承された。

- ・議決権行使書の宛先を富田さんから高野さんに変更する。
- ・懇親会の会費については 3000 円にする案もあったが、昨年同様に 2500 円とする。

12. 各委員会の活動状況報告など

1) 編集委員会（谷） 資料 30-常任 1-11
活動状況が報告され、議論の結果、H30 年度に岩の力学ニュースの PDF 化を行うことになった（必要な予算については上記 10.に記載した）。

2) 国際技術委員（横尾） 資料 30-常任 1-12
若手技術者海外助成の審査結果が報告され、質疑なく、了承された。また、日本人が参加している ISRM の Technical Commission について、調査結果が報告された。これらの情報を公開した方がよいという意見があったことから、国際技術委員会の方で公開の仕方を検討していただくこととなった。

3) 電子ジャーナル委員会（児玉） 口頭のみ
特に報告はなかった。

4) Rock Net 委員会（小山） 資料 30-常任 1-13
活動状況について、岩の力学ニュース等をアクセス制御して公開可能であること等が紹介され、以下の質疑があった。

- C. 岩の力学国内シンポジウムの公開については、編集委員会の方でまず著者とタイトルのリストを作成することは可能と思う。
- C. リストだけではサービスにならないという意見もあり、論文も公開する方向で検討していたが、結局、論文の Web 公開については著作権が問題となる。
- C. まずリストだけでもいいのではないか。
- Q. Rock Net Mail の配信依頼を行う機関に対して、賛助会員になっていただく働きかけはなぜ今まで行われなかったのか。
- A. 以前は賛助会員だったが、公益団体が一般団体の賛助会員になることは難しいということだった。
- C. 組織として賛助会員になる事ができなくても、個人会員になっていただく働きかけは可能だと思う。
- C. 賛助会員は無料で、非賛助会員は有料にする方法もある。有料にする場合、先方が支払いやすいように年間契約にする等、工夫した方がよい。
- C. Rock Net Mail の中に、時々、会員になっていただく呼びかけをしてもよいと思う。
- C. 代議員選挙に関連して、インターネットで投票がきくようになるとよい。

以上より、岩の力学国内シンポジウムについては、まずリストだけでも先行して公開していくことになった。また、Rock Net 委員会にて、非賛助会員に対して有料にする方法や会員になっていた

だく呼びかけ方法，インターネットで代議員選挙の投票が可能かどうか，について検討していただくこととなった。

5) 連合会賞選考委員会（岸田）

口頭のみ

特に報告はなかった。

6) 総務委員会（岡田）

口頭のみ

特に報告はなかった。

7) 賛助会委員特別会議（奥野）

資料 30-常任 1-14

活動報告として，他学会の団体会員制度の調査結果の紹介があった。JSRM にとって参考になる調査であり，団体会員のメリットについて今後も検討していただくこととなった。

8) ILC 研究企画特別委員会（横尾）

資料 30-常任 1-15

活動報告として，意見交換会（第 1 回）の紹介があった。特に質疑はなかった。

13. 国際シンポジウム YSRM2019 について（岸田）

資料 30-常任 1-17

活動報告として，第 1 回合同組織委員会・運営幹事会の内容が紹介された。特に質疑はなかった。

14. 国際シンポジウム「火山」（新）

資料 30-常任 1-18

国際会議「火山」の共催に向けての JSRM の方針と応用地質学会の検討状況が紹介され，以下の質疑があった。

Q. これまで実施してきた ISRM の「火山」シンポジウムの一連のシリーズとして実施するのか。

A. そういうことになる。

C. その場合，OnePetro に掲載することも意識しておいた方がよい。

以上より，JSRM と応用地質学会の覚書の案を理事長が作成し，次回以降の理事会に諮ることとなった。

14. 岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッション（岡田）

資料 30-常任 1-19

岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッションについて，岩盤力学委員会の論文小委員会で報告し，概ね了解されたことが報告され，以下の質疑があった。

Q. セッションテーマをまず決める必要があるが，案に記載の「総合的な岩盤科学技術の創生と体系化」と「岩の力学のあたらしい研究分野の創生」の 2 つは意味が違うのではないか。

A. そのとおりである。後者の場合，発表内容が制限されてしまうように思う。

C. 候補があるなら後者でもよいと思う。

C. 月の真空の話や超高压の話等は新しいと思う。

C. もう一度，山形大学の本山先生に地震の震源の話をしてもらうのもよい。

C. 上西先生が ARMS で地震の震源の話をしていた。

C. 清水建設が月の石を人工的に作るようなことを実施していた。

Q. 宇宙関係の話をまとめて実施できる人がいないか。

A. JAXA なら可能かもしれない。

C. テラメカニクスなどもよい。

C. i-Construction などもよい。

Q. セッションテーマを今決める必要があるか。

- A. 6月末までに岩盤力学委員会の論文小委員会に伝えないといけないので、今決めたい。
- C. テーマが「新しい岩盤科学技術」で、副題が「JSRMのオーガナイズドセッション」としてはどうか。
- C. ではそれを第1案として論文小委員会に提出したい。
- C. 具体的な発表内容や発表者の案については、各学会の代表理事から最低1個出してもらい、それを次回以降の理事会で議論することとしたい。
- Q. 各学会から4つ出して全部内容がばらばらでもよいのか。
- A. 現段階ではよいと思う。

以上より、各学会の代表理事である谷理事（地盤工学会）、清木理事（土木学会）、西村理事（材料学会）、伊藤理事（資源・素材学会）から、本日出た意見を参考にして、発表内容や発表者の案を作っていたこととなった。

15. 賛助会員特別会議提言を受けた講習会（案）（岡田） 資料 30-常任 1-20

賛助会員特別会議提言を受けた講習会の案について紹介があり、以下の質疑があった。

- C. 次々と開催されるイメージが分かった方がよいので、例えば、清水先生、岸田先生、谷先生、伊藤先生、長田先生に各3回くらいで用意してもらってはどうかと思う。
- Q. シリーズで行う必要があるのか。
- A. シリーズでなくてもよいと思うが、いろんな先生が次々と控えているというのが分かった方がよいと思う。
- Q. 大学の講義をやるのか。
- A. このために先生の手間がかからない事が重要と思う。
- Q. 若手対象か。
- A. 趣旨としては若手のイメージだが、必要があれば年齢を制限してもよいかもしれない。
- C. シリーズ化にすると、日程を決めないと参加者に悪いので、必要があれば、何回も同じものをやればよいのではないかと思う。
- C. では、まず候補の先生に1回ずつ実施してもらってはどうか。
- C. 対象は学部生の講義よりも1段上で、大学院のイメージかなと思う。
- C. では、募集時に大学院生くらいの講義内容と記載するようにしたい。
- C. タイトルは事前にわかっているから興味ある人しか来ないし、興味を持たれると思う。年配の人も来る可能性がある。大学院の講義を聴けるという案内だけで、十分に参加者が集まると思う。
- C. では年齢制限を設けずに、大学院生くらいの講義内容と周知したい。ではまず、候補の先生にタイトルを出していただく方向で進めたい。

以上より、岡田幹事長から候補の先生に90分の講義のタイトルを提出していただけるように依頼して、講習会の内容を具体化していきたい。

16. ISRM Muller Award の推薦（新） 口頭のみ

ISRM Muller Award について日本から推薦がなく見送ったこと、その後、ISRM に3人の候補者があり、次回の ARMS10 でその投票があること等が紹介された。だれに投票するかについては、理事長に一任することとなった。

17. 2023 ISRM Congress（岡田） 資料 30-常任 1-21

2023年にISRM Congressに立候補している韓国の情報が紹介された。特に質疑はなかった。

18. 岩盤工学者名鑑に関するフリーディスカッション（新） 口頭のみ

岩の力学ニュースの 2 月号に大西先生が岩盤工学者名鑑を作りにませんかと記載していたことに対して、フリーディスカッションを行った。

- C. 趣旨は、若い人が国際学会に出たときに人の顔がわかることが大事であること。また、日本人は英語のコミュニケーションの問題も含めて、ネットワークづくりがうまくいかない面もあること。ネットワークづくりをするためにも顔がわかることが大事だという趣旨で書かれていた。
- Q. 写真はどのように入手するのか。
- A. 写真は Web に出てくるので紹介文と一緒にコピーしてフリーの HTML ソフトで作成してはどうか。
- Q. Rock Net 委員会に依頼することになるのか。
- A. 理事会で分担して行ってはどうか。短期間で完成させるというわけではなく、少しずつ無理のない範囲で進めていけばよいのではないか。
- Q. リンクはよいが、写真をコピーするのは問題ないのか。
- A. 公開情報のみからということと、本人から申し出があれば削除するというスタンスでやってみてはどうか。
- C. 写真を集めて貼り付けてよいかどうかはよくわからない。
- C. 作業を行うという趣旨ではなく、肖像権とか、個人情報含めてそのようなことが可能かどうか Rock Net 委員会に検討してもらってはどうか。

以上より、Rock Net 委員会に岩盤工学者名鑑を作成するに当たっての課題や方法を整理していただくこととなった。

19. 国際シンポジウム Rock Dynamics について (清木)

資料 30-常任 1-16

活動報告として、第 1 回 RDS2019 実行委員会の内容が紹介された。議論する時間がなかったため、口座の開設や会計等については、JSRM の岡部さん、尾野さんと清木先生で相談していただくこととなった。また、次回の理事会で、予算に関する詳細を説明していただくこととなった。

20. 今後の予定

- 1) 第 1 回理事会 (書面審議:平成 30 年 5 月 31 日 (木) 〆切)
- 2) 平成 30 年度 定時社員総会 (平成 30 年 6 月 15 日)
- 3) 平成 30 年度臨時理事会 (平成 30 年 6 月 15 日 (木) 15:00-15:10)
- 4) 平成 30 年度第 2 回常任理事会 (平成 30 年 7 月中旬~8 月中旬)
- 5) 平成 30 年度第 2 回理事会 (平成 30 年 9 月下旬~10 月上旬)
- 6) 総会時臨時理事会向け年間スケジュール (11 月上旬選挙管理委員会スタート)

※ 決議・承認事項

以上